

課題名	宮内イヨカン高接樹の枝梢処理と翌年の着花並びに春枝の発生																																																					
成果の要約	摘心処理は2年目の着花は少なかったが、枝梢の生育が劣り樹冠の回復は悪かった。																																																					
成績概要	<p>宮内イヨカン高接更新樹の初年目の摘心と芽かきの枝梢処理が翌年の着花並びに新梢の発生に及ぼす影響を無処理と比較する。</p> <p>(1) 無処理区は高接2年目の着花が著しく多く、新梢の伸長がやや劣った。ところが新梢の発生数が多く、1穂当たりの新梢の総芽数は芽かき区に次いで多かった。</p> <p>(2) 芽かき区は2年目の着花が少なく、新梢の伸長が良く1穂当たり新梢の総葉数は芽かき区に次いで多かった。</p> <p>(3) 摘心区は着花は少なかったが、新梢の発生が少なく、1穂当たりの新梢の総伸長量、総葉数は最も少なかった。</p> <p>(4) 2月目の着花の多少には処理当年の秋枝の発生が影響すると思われる。</p> <p>第1表 枝梢処理と初年目の枝の発育</p> <table border="1" data-bbox="189 1484 1575 1958"> <thead> <tr> <th rowspan="2">処 理</th> <th colspan="3">春</th> <th colspan="3">夏</th> <th colspan="3">秋</th> <th rowspan="2">1穂当たりの 総伸長量</th> </tr> <tr> <th>発生 枝数</th> <th>1穂当たり の総伸長量</th> <th>平均 枝 長</th> <th>発生 枝数</th> <th>1穂当たり の総伸長量</th> <th>平均 枝 長</th> <th>発生 枝数</th> <th>1穂当たり の総伸長量</th> <th>平均 枝 長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>摘 心</td> <td>13</td> <td>25.2 <i>cm</i></td> <td>13.9 <i>cm</i></td> <td>35</td> <td>99.5 <i>cm</i></td> <td>19.5 <i>cm</i></td> <td>37</td> <td>93.3 <i>cm</i></td> <td>18.3 <i>cm</i></td> <td>218.0 <i>cm</i></td> </tr> <tr> <td>芽かき</td> <td>13</td> <td>80.7</td> <td>37.3</td> <td>32</td> <td>109.9</td> <td>22.6</td> <td>26</td> <td>94.2</td> <td>22.0</td> <td>284.8</td> </tr> <tr> <td>無処理</td> <td>15</td> <td>81.3</td> <td>34.5</td> <td>86</td> <td>207.0</td> <td>15.4</td> <td>16</td> <td>48.9</td> <td>21.3</td> <td>337.1</td> </tr> </tbody> </table>	処 理	春			夏			秋			1穂当たりの 総伸長量	発生 枝数	1穂当たり の総伸長量	平均 枝 長	発生 枝数	1穂当たり の総伸長量	平均 枝 長	発生 枝数	1穂当たり の総伸長量	平均 枝 長	摘 心	13	25.2 <i>cm</i>	13.9 <i>cm</i>	35	99.5 <i>cm</i>	19.5 <i>cm</i>	37	93.3 <i>cm</i>	18.3 <i>cm</i>	218.0 <i>cm</i>	芽かき	13	80.7	37.3	32	109.9	22.6	26	94.2	22.0	284.8	無処理	15	81.3	34.5	86	207.0	15.4	16	48.9	21.3	337.1
処 理	春			夏			秋			1穂当たりの 総伸長量																																												
	発生 枝数	1穂当たり の総伸長量	平均 枝 長	発生 枝数	1穂当たり の総伸長量	平均 枝 長	発生 枝数	1穂当たり の総伸長量	平均 枝 長																																													
摘 心	13	25.2 <i>cm</i>	13.9 <i>cm</i>	35	99.5 <i>cm</i>	19.5 <i>cm</i>	37	93.3 <i>cm</i>	18.3 <i>cm</i>	218.0 <i>cm</i>																																												
芽かき	13	80.7	37.3	32	109.9	22.6	26	94.2	22.0	284.8																																												
無処理	15	81.3	34.5	86	207.0	15.4	16	48.9	21.3	337.1																																												

第2表 枝梢処理と翌年の着花と新梢（春枝）の発生

処 理	1穂当りの着花数	1穂当りの新梢数	1穂当りの新梢の総伸長量	新梢の平均枝長	1穂当りの新梢の総葉数	新梢1本当たりの葉数
摘 心	10	41	425	10	268	7
芽 か き	17	53	573	11	362	7
無 処 理	86	61	455	8	310	5

着花調査 昭和57年5月11日～13日、枝葉調査 昭和57年6月18日～7月2日

第3表 枝梢処理と翌年の新梢の長さ別割合

処 理	新梢の長さ別割合 (%)					
	0～5.0	5.1～10.0	10.1～15.0	15.1～20.0	20.1～25.0	25.0～ ^{cm}
摘 心	23.4	30.5	21.9	15.7	5.7	2.8
芽 か き	22.0	26.2	26.8	13.8	8.2	3.1
無 処 理	39.8	31.1	20.5	7.0	1.3	0.2

樹勢の良い園で高接を行い、接木当年には肥培管理に留意して無処理に秋枝が発生するくらいの樹勢を保てば樹冠の拡大が早い。

その
他

昭和57年度長崎県果樹試験場成績